

平成 24 年 2 月 9 日

熊本放送文化振興財団
理事長 小堀富夫殿

『言魂』上演実行委員会
代表 山本哲郎

『言魂 し・歌・舞—石牟礼道子・多田富雄深き魂の交歓』熊本並びに水俣上演事業実施概要報告書

日本を代表する熊本在住の作家石牟礼道子さんと世界的な免疫学者故多田富雄氏とが、水俣病や広島・長崎被爆を題材とした互いの新作能を通して、また、それぞれの不治の病の中から、人間のあり方と現代文明を問いあつた往復書簡を基にした創作舞台である『言魂 詩・歌・舞—石牟礼道子・多田富雄深き魂の交歓』（主催：アトリエ花習）の熊本県立劇場（12月14日）および水俣市文化会館（12月15日）における上演を、情宣、入場券販売、当日の運営などに亘ってお手伝いしました。

情宣活動としては、ポスター200枚およびチラシ15,000枚を配布するとともに、事前ワークショップを10月29日と11月30日に開催しました。また、水俣市においては、宣伝カーによる市街情宣も行いました。入場券販売においては、プレイガイドなどへの委託販売依頼に加えて、実行委員による個人販売も行いました。上演当日においては、一部の作業をイベント実施会社に依頼しましたが、会場への入場案内などは私達で行いました。

このようなわれわれ実行委員会の活動に加えて、熊本放送を始めとしたテレビ局や新聞社によるマスコミ情宣のおかげで、熊本並びに水俣上演それぞれにおいて、530名程度の観劇入場者を得ることができました。

上演内容は、上記の往復書簡や二人が詠まれた詩歌の朗読、二人の新作能の舞や謡、それら新作能上演会の記録ビデオに加えて、原子力発電所事故被災を表現した福島在住の和合亮一氏の詩の朗読で構成されており、深く重く時代を問うものでした。

観劇者の評価に関してとくに事後調査は行っていませんが、往復書簡の内容に加えて出演者の質の高さもあり、口頭では多くの方から高い評価の言葉をいただきました。3月11日の東日本大震災並びにその後の福島原子力発電所事故を経験した同年に開催でき、しかも和合氏の詩の紹介も行えたことから、時宜を得た上演会であったと思います。

概要報告を終えるにあたり、資金援助をいただいた貴「熊本放送文化振興財団」に対し心からお礼を申し上げます。

以上

2011・12 言魂九州公演決算書

◆収入		
摘要		金額
熊本放送文化振興基金助成金		200,000
熊日文化スポーツ基金助成金		200,000
チケット収入	熊本公演分	2,063,400
	水俣公演分	1,100,000
	総合計	3,563,400
◆支出		
摘要		合計金額
会場費		593,650
広告宣伝費		28,895
照明		300,000
記録ビデオ撮影費		20,000
チケット販売に関する手数料等		69,325
受付人件費		123,600
印刷		425,000
運搬費		15,830
振込手数料		2,835
通信費		50
飲食代		43,186
宿泊・交通費		1,183,750
出演料		1,000,000
衣装・ヘアー		100,000
諸経費		229,678
	総合計	4,135,799
◆収支		
	収入	3,563,400
	支出	4,135,799
	残額	-572,399

